

CONTENTS COMBAT

2013.Mar.
No.444

3

Cover Design
favorite graphics(tamao ito),
Cover
『ゼロ・ダーク・サーティ』
2/15(金)より、TOHOシネマズ
有楽座ほか全国ロードショー
Cover Photo
Jonathan Olley
©2012 CTMG. All rights reserved
©WORLD PHOTO PRESS 2013



004 【第1特集／映画『ゼロ・ダーク・サーティ』】 COMBAT Recommend Movie ゼロ・ダーク・サーティ

●解説:狩野健一郎

008 The Equipments of the U.S. Force [現用米軍装備カタログ] 第102回 DEVGRU 映画『ゼロ・ダーク・サーティ』装備特集

●解説:松原隆(高知ボンバーズ) ●本文解説:オールド・ソルジャー

018 【第2特集／TOYGUN】 カスタム・トイガン お手軽 GLOCKカスタムにチャレンジ!

●Photos&Text by Taku

050 東京マルイ SENTINEL NINE

●Photos&Text by Taku

056 WESTERN ARMS NIGHTHAWK CUSTOM COSTA RECON

●Photos & Text by SHOTGUN MARCY

028 GOODS & ACCESSORY

040 New Generation Styler

●by fujiwara

060 WESTERN ARMS M16 SNIPER RIFLE G13A3

●Photos & Text by SHOTGUN MARCY

070 こちらイタリア軍 広報ブース

●by大矢アキオ

074 ESS BALLISTIC EYEWEAR 耐弾実射テスト

●Photos by DUKE HIROI/Taku/Masakuni Miyasaka(WPP)

076 トイガンニュース

076 WA ニューモデル・ラインナップ

079 セクトー ICS M1ガーランド

080 世界の兵士図鑑

海上自衛隊 各種制服と徽章類

●イラスト・解説:坂本 明

084 サープラスていじり技術研究所

●写真・文:織本知之

085 Militaria Roundup! アメリカ陸軍 将校用冬期制服 PART2

●解説:菊月俊之 ●写真:宮坂政邦(WPP)

096 PRESENT

130 Outdoor Research Tactical Line Glove

●Photos by Taku/Masakuni Miyasaka(WPP)

134 英国スパイ博物館

●by大矢アキオ

136 ZERO-VISION 2WAY タクティカルゴーグル

●写真・文:織本知之

138 にっぽんのちからこぶ 「第1普通科連隊 レンジャー最終想定」

●取材:菊池雅之

142 ヒストリーチャンネル・リアルドキュメンタリー番組 射撃王 ～10万ドルを手にするのは誰だ～シーズン3

●Text by Taku

186 中田商店グッズ

097 GAME OVER THE TOP!

物欲ワンホール

ROUND 17:チャレンジするバグPart.1

104 レア・ミリタリー・テクノロジー

108 ミリタリー雑学講座

112 ミリタリー・コレクション

114 幻妖中隊 #mod.18 ●by fujiwara

116 アメリカGUN事情 Guns Talk from US

118 ザ・ビクトリーショー

119 MGストーリー(最終回)

122 蛙のゆびさき(中山 蛙)

124 トイガンズジャンクション

161 バックナンバーリスト

162 読んで覚える TakuのHOW TO Shooting 射撃のススメ

164 帰ってきた 狩野健一郎の[監督、そこにおっぱいは必要ですか!?]

166 A STITCH IN TIME

167 新春 ブラックホール

168 トルビードフェスタ

169 ビバ! ナイフ

170 狩野健一郎のシネマ放浪記

171 狩野健一郎の新作DVD紹介

172 コンバットマガジン・インフォメーション・センター

175 読者プレゼント応募方法

176 編集後記



DEVCGRU

ビンラディン強襲作戦、38分のすべてを目撃

GPNVG -18

OPERATION NEPTUNE SPEAR

CIA

ゼロ・ダーク・サーティ

2/15(金)より、TOHOシネマス有楽座ほか全国ロードショー
配給：GAGA
Jonathan Olley ©2012 CTMG. All rights reserved



CIAメインのストーリーは
意外にして新鮮!
細かい描写にくぎづけでした。
(fujiwara[Dazzled Eyes Designs])

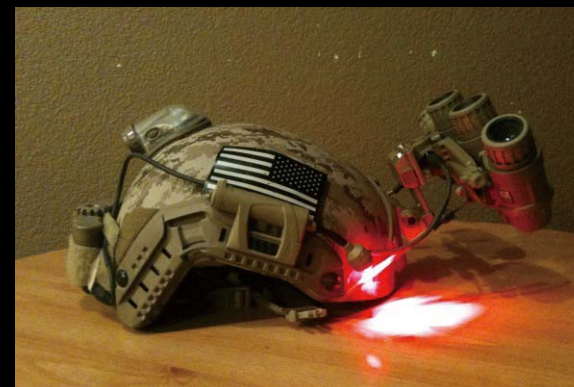


GPNVG18NVISモデル
(TNVC.comより)

Jonathan Olley.



01 インサイト・テクノロジー社製 パノラマ・ナイトビジョンGPNVG18



現行のSEALS隊員の装備。ヘルメットは最新のOPS-CORE社ヘルメット・マリタイム仕様（デザート迷彩）にGPNVG（BNVISモデル）ゴーグル。



Crye Precision AirFrameヘルメットにGPNVG・ANVISモデルを装着している。



劇中では多くの隊員がGPNVG18を使用する。実物サイズよりも大きくモールドがあまいので映画用プロップ（そっくりに作られた小物）と思われる。[Jonathan Olley.]



The Equipments of the U.S. Force

【現用米軍装備カタログ】 第102回

DEVGRU 映画

『ゼロ・ダーク・サーティー』装備特集

●解説: 松原隆(高知ボンバーズ) ●本文解説: オールド・ソルジャー ●撮影: 山崎 学

●協力ショップ: LAZY CAT <http://lazycat.jp/>
Gamis <http://www2.ocn.ne.jp/~gamis/>
TRI.S(旧・特小工房) <http://m80fmj.web.fc2.com/>

米国東部夏時間2011年5月1日、オバマ大統領は昼前からのゴルフをハーフラウンドで切り上げ、午後2時にホワイトハウスに戻った。実はゴルフは後に歴史に残るであろう極秘作戦が進行中であることを悟られないためで、大統領にとってスコアなどどうでもよかった。それは4月29日に大統領が作戦決行を指示した、国際テロ組織アルカイダの指導者ウサマ・ビンラディン容疑者捕獲/殺害作戦「Operation Neptune Spear（海神の槍作戦）」である。

米海軍SEALS対テロリスト特殊部隊DEVGRU（特殊戦開発グループ）レッド

戦闘中隊の襲撃チームを乗せたヘリコプターがアフガン東部のジャラバードを出発し、パキスタン国境から約120マイル内陸のビンラディンの潜伏場所であるアボダバードに接近しつつあった。それをパネッタCIA長官から伝えられた大統領は隣の小部屋に入り、ラップトップPCを操作する統合特殊作戦司令部副司令官ウェッブ准将の横に座った。そこにオバマ政権の軍事・安全保障問題担当の幹部が続き、上空1万5千フィートを飛行するRQ170型無人偵察機がリアルタイムで撮影する映像に入っていた。だがステルス型MH-60ブラックホークヘリコプターの1機が突然のトラブルで目標施設内に不時着し壁に激突した。大統領は膝に手を置き前のめりで画面を凝視し、ヒラリー・クリントン國務長官は口に手を当て目を見開く。奇襲攻撃の要素は塵芥に帰したが、襲撃チームはロープでのSEALS隊員の母屋屋上降下を諦め、ターゲットの潜む建物の1階から3階まで駆け上がり掃討する作戦に切り替えた。

来客用別棟で抵抗したビンラディンの連絡員と母屋で遭遇したAK47を持つ

口髭の男を妻とともに射殺。階段を下りてきたビンラディンの息子も命令に従わず同じ運命を辿る。実際に作戦に参加し、退役したSEALS隊員マーク・オウエン（本名マット・ビンネット）著の『No Easy Day』によれば、ポイントマンが最上階ドアから廊下を覗き込んだビンラディン頭部右側に銃撃を加え、寝室に引き込み血だまりの中に倒れピクピクと動いている彼の身体に覆い被さって泣き叫んでいた女ふたりを部屋の角へ引っ張っていき、他のSEALS隊員とともに動かなくなるまで何発も銃弾を撃ち込んだ（後にビンネットは機密情報漏洩で国防総省との法的トラブルと特殊作戦コミュニティの批判に直面し実名を晒されアルカイダの賞金首となる）。それを確認したSEALS隊員が「ジェロニモE-KIA（ビンラディン戦闘中死亡）」と無線報告を行なった。

2001年9月11日にアメリカ合衆国で発生した、航空機を使った4つの同時多発テロ事件首謀者の最後である。オバマ大統領は「We got him（仕留めた）」とつぶやいた。



お手軽カスタム・トイガン GLOCKカスタムに チャレンジ!

Photos&Text by Taku

スピードシューティングにお薦めのトイガンはガバ系ハンドガンだけじゃない!!
今が旬のスピードシューティング向けGLOCKカスタムを紹介しよう。

こういった仕事をしていると、“スピードシューティングに一番適したガンは何か?”という質問を投げかけられる機会が多い。質問してくる相手は、初心者からベテランまで千差万別でバラエティに富んでいる。この質問、実は意外と返答に困る。というのも、ガンの好みは人それぞれだからだ。質問者の好みに合わないガンを提案しても納得してくれないし、だからといって無難なガンを薦めるってのも、自分的に納得がいかない。結局は相手の好みを考慮しつつ、無難に話を進めていくことになる。でもボク個人として、実際のところ掛け値なしに“一番のお薦めガンは何?”と聞かれたら、東京マルイのグロック17と即答する。なぜ東京マルイの“グロック17がお薦めなのか?”“ハイキャバやMEUじゃダメなのか?”もちろんそれらのモデルが悪いワケじゃない。ガバ系モデルは使用者も多いし、アクセサリーの数も豊富に取り揃っているんで、色々揃えるのがラクである。それなのに、なぜガバ系ではなくグロックをチョイスするのか?それは“東京マルイのグロックがガバ系と同じコック&ロックだからである”ということに尽きる。

実銃のグロックというのはご存知の通り、「セ



東京マルイのグロック17。見た目こそ野暮ったいが、中身はすごいヤツ。これからスピードシューティングを始めるのなら、価格的にも性能的にもお薦めのモデルだ。

ーフアクション」と呼ばれる独特なメカニズムを持っている。スライドを引いて初弾をチェンバーへ送り込むと、ストライカーはハーフコックの位置で止まる。この状態からストライカーが誤作動を起こしても弾は発射されることはない。弾を発射するにはトリガーを引き絞り、ハーフコックの位置にあるストライカーを完全に後退させなければならない。これがグロック独特のメカニズムであり、最大の特徴でもある。さて話をトイガンへと戻そう。

実銃のグロックに搭載されているこのメカニ

GLOCKカスタムにチャレンジ!



野暮ったいグロックも、ひと手間掛けければスタイリッシュに大変身。見た目的にはかなり変わっているが、見た目のほど手間は掛かってない。道具と時間さえあれば誰でもできるカスタムだ。

グロックお手軽カスタマイズ

- ☐ 東京マルイ「GLOCK17」
- ☐ ハイキャバのアジャスタブルリアサイト
- ☐ ABS板(1mmと2mmがあると便利)
- ☐ 瞬間接着剤
- ☐ ヤスリ各種
- ☐ キャロムショット「ブラックスチールスプレー」
- ☐ アトム「ストーン調スプレー」
- ☐ お好みで「集光アクリル材」

これらのアイテムを用意したら作業スタートだ。まずはじめにガンを分解してスライドとフレームを取り出しておく。この際、外せるパーツはすべて外して、トレーの中などに入れておけばなくさない。下準備が完了したら、早速作業に取り掛かる。

ズムをトイガンで再現するとすると、ブローバックエンジンをスライド内に搭載している関係から、再現は困難を極めてしまう。そのためトイガンのグロックでは、形状こそ実銃のグロックを再現しているが、メカニズムは、ガバ系と同じコック&ロックメカとなっているのだ。これは、恐らくいちばんシンプルで壊れにくく、信頼性の高いメカニズムだからと考えられる。ガバ系と同じなら、何もグロックじゃなくてもよいのでは?と思ったそこのアナタ。まだ話は終わってません。

確かに、基本的なメカニズムこそガバ系と同じだが決定的な部分が異なっている。それが“セフティ”だ。ハイキャバやMEUといったガバ系のメカニズムを持つガンには、構造上、マニュアルセフティとグリップセフティというふたつの安全装置を装備している。ハンマーがコックされたガンは非常にキケンであるため、2重のセフティ機構で、誤作動や暴発を防いでいる。モデルによってはグリップセフティがオミットされているモデルもあるが、基本的にはふたつとも機能している。この2重の安全装置を解除しない限り、コック&ロックのガンは弾が出ない。この高い安全性と、壊れにくく滑らかなトリガーフィーリングがガバ系の人気なのである。

信頼性の高いガバ系のモデルだが、このセフティ機構がスピードシューティングではアダとなってしまう。安全性を確保するためのセフティだけに、確実に解除しなければ、弾を発射す

ることができない。特にグリップセフティが曲者で、ちょっとグリップを握り損なったりすると、解除できなくなってしまうのである。これはどんなベテランの人でも起こり得るトラブルであり、ボク自身も経験したことはもちろん、目の当たりにしたこともある。

ここまで書いたら判ると思うが、トイガンのグロックの安全装置はブツちゃけていうと、トリガーセフティだけなのである。厳密に言えば、フレーム下部にマニュアルセフティはあるが、競技では使えないし使用しなくてもよい。これに加え、価格的にもハイキャバやMEUなどのガバ系にくらべてリーズナブル。さらに最近のグロック・ブームのおかげで、ホルスターなどのアクセサリーも豊富に取り揃っているのも魅力のひとつだ。

確かに、グロックは野暮ったいデザインだし、ガバ系のように色々なモデルが出ているワケでもない。しかも見た目的には好みが分かれるところだろう。しかし見た目を補って余りある機能性は注目に値する。

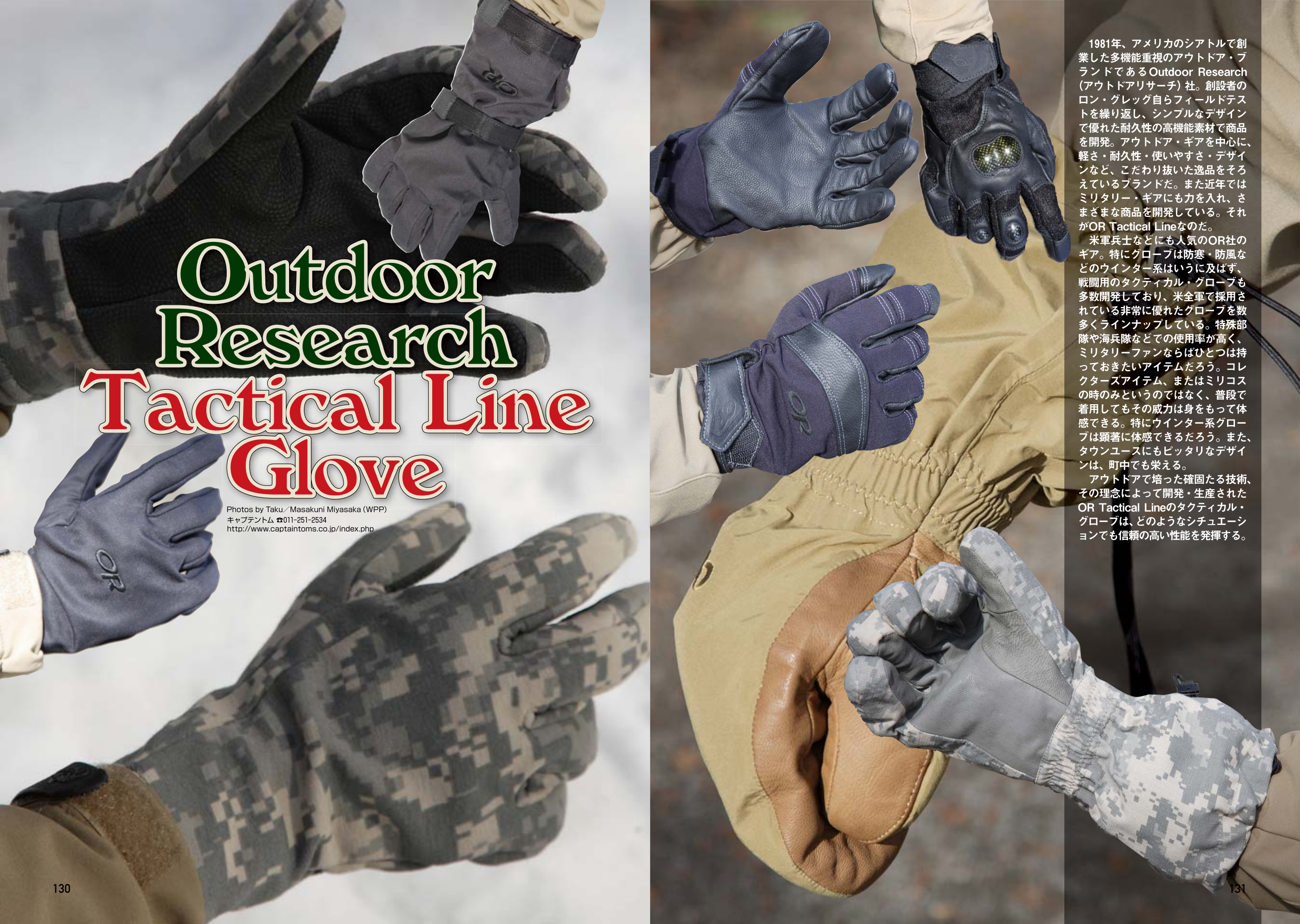
このレポートの始めに戻るが、どのガンがよいかと聞かれた際には、こういった理由から、ボクは“東京マルイのグロック”をオススメしている。

機能的には申し分のないグロックだが、グリップの太さや、トリガーストロークなど気になる部分は少ない。スピードシューティングを始めればかなりのビギナーなら気にならないかもしれないが、長く続けているとアラが見えてきてしまう。当然見てみぬフリはできないので手を加える

ことになる。少々手間にはなるが、自分好みのガンに仕上げることができるし、元々モノを作るのがスキなので自分で加工することになっている。

作るのが面倒だったり苦手な人は、サードパーティからカスタム品のグリップフレームやトリガーなどが出ているので、そういったパーツに換装するという手もある。しかし、そういったパーツは少々値が張るため金銭的に余裕がないと揃えられない。また純正のパーツとは違い製品によっては調整が必要となるため、ガンのメカニズムにも詳しい必要がある。誤解のないようにしておくが、サードパーティのパーツがダメだというワケではない。あくまでもガンとの相性や個体差によって不具合が発生する可能性があるのであって、パーツそのものが悪いのではない。もちろん海外メーカーの中には、粗悪なモノを製造しているところもあるが、そんなのはごくわずか。現にボクもフリーダムアートのグロック用アキュコンプを使用している。サードパーティのパーツでも、よいモノは積極的に使用する。カスタムグリップを使わずに加工しているのは、イジくるのが好きだから、特に他意はない。

というワケで、今回のレポートでは、日頃ボクが使用しているグロックのカスタムを紹介するとともに、比較的簡単にできるカスタマイズを紹介させていただこう。見た目は難しそうに感じるかもしれないが、時間を掛けてユックリとやれば出来るものなので、ぜひチャレンジして欲しい。



Outdoor Research Tactical Line Glove

Photos by Taku/Masakuni Miyasaka (WPP)
キャプテントム ☎011-251-2534
<http://www.captaintoms.co.jp/index.php>

1981年、アメリカのシアトルで創業した多機能重視のアウトドア・ブランドである Outdoor Research (アウトドアリサーチ) 社。創設者のロン・グレッグ自らフィールドテストを繰り返し、シンプルなデザインで優れた耐久性の高機能素材で商品を開発。アウトドア・ギアを中心に、軽さ・耐久性・使いやすさ・デザインなど、こだわり抜いた逸品をそろえているブランドだ。また近年ではミリタリー・ギアにも力を入れ、さまざまな商品を開発している。それがOR Tactical Lineなのだ。

米軍兵士などにも人気のOR社のギア。特にグローブは防寒・防風などのウインター系はいうに及ばず、戦闘用のタクティカル・グローブも多数開発しており、米全軍で採用されている非常に優れたグローブを数多くラインナップしている。特殊部隊や海兵隊などでの使用率が高く、ミリタリーファンならばひとつは持っておきたいアイテムだろう。コレクターズアイテム、またはミリコスの時のみというのではなく、普段で着用してもその威力は身をもって体感できる。特にウインター系グローブは顕著に体感できるだろう。また、タウンユースにもピッタリなデザインは、町中でも栄える。

アウトドアで培った確固たる技術、その理念によって開発・生産されたOR Tactical Lineのタクティカル・グローブは、どのようなシチュエーションでも信頼の高い性能を発揮する。